

2025年12月期
第3四半期
決算説明資料



INDEX

1. 2025年12月期 第三四半期 決算概要

2025年12月期 第三四半期 経営成績	4
2025年12月期 第三四半期 販売状況	5
連結売上高および連結営業利益の増減	6
四半期別業績推移	7
セグメント別経営成績	8
売上高実績（セグメント・地域別）	9

2. 2025年12月期 業績予想

2025年12月期 通期予想	11
連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）	12
連結営業利益の増減予想	13
売上高目標（セグメント・地域別）	14
設備投資・研究開発費・減価償却費	15
株主還元政策	16
トピックス	17
やまびこの存在意義	18

3**APPENDIX****19**

会社概要	20
やまびこの歩み	21
業績推移と売上構成	22
事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	23
事業セグメント：農業用管理機械	24
事業セグメント：一般産業用機械	25
国内生産体制	26
海外生産体制	27
販売体制	28
主要販売子会社：やまびこジャパン株式会社	29
主要販売子会社：エコー・インコーポレイテッド	30
主要販売子会社：やまびこヨーロッパ・エス・エイ	31
主な販売経路	32
国内・海外のユーザー	33

1

2025年12月期 第3四半期 決算概要

2025年12月期 第3四半期 経営成績

- 売上高は前年同期比で6.4%の増加。主力のOPE※が北米市場で良好な天候が続いたことやホームセンター向けのエンジン製品を中心に伸長したことに加え、欧州市場でも新型ロボット芝刈機の好調な販売が継続。
- 損益面は、DX戦略に基づくIT関連投資費用や国内外の総人件費増加に加え、米国の関税政策の影響もあり営業利益は2.5%の減少。経常利益は、前期の為替差益が今期は為替差損に転じたことで5.7%の減少となり、法人税等調整額の影響もあり最終利益も13.1%の減少。

売上高
135,317百万円
(前年同期比 +6.4%)

営業利益
16,799百万円
(前年同期比 ▲2.5%)

親会社株主に帰属する
四半期純利益
11,668百万円
(前年同期比 ▲13.1%)

(百万円)	24/12期 3Q 実績	構成比 (%)	25/12期 3Q 実績		
			構成比 (%)	前年同期比 (%)	
売上高	127,151	100.0	135,317	100.0	+6.4
売上原価	83,107	65.4	89,403	66.1	+7.6
販管費	26,805	21.1	29,114	21.5	+8.6
営業利益	17,238	13.6	16,799	12.4	▲2.5
経常利益	17,017	13.4	16,053	11.9	▲5.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13,430	10.6	11,668	8.6	▲13.1

■為替レート

1ドル	151 円	148 円	▲2.2
1ユーロ	165 円	166 円	+0.7

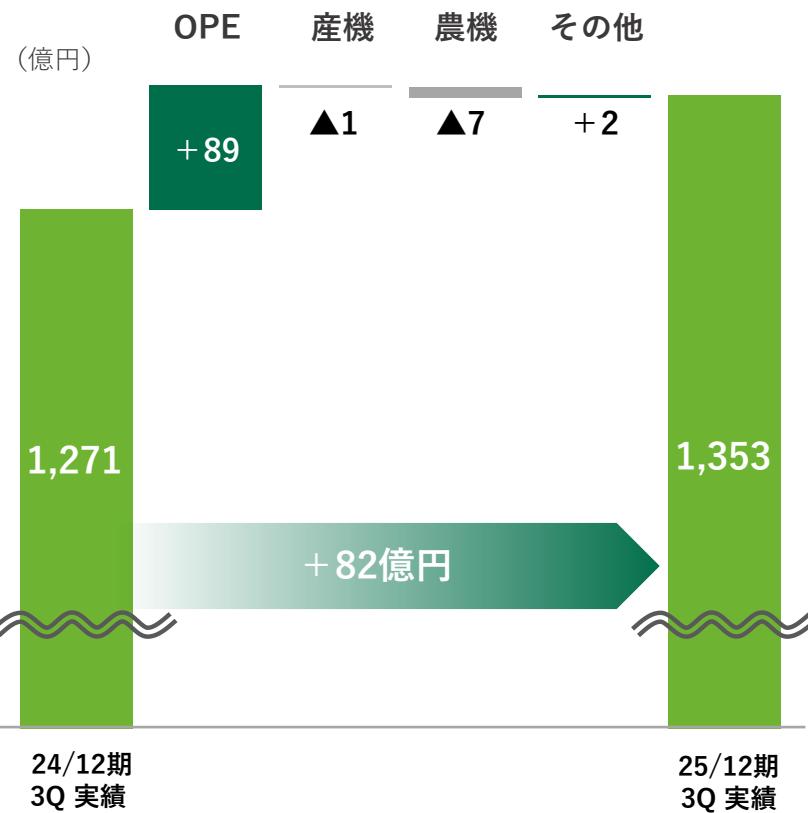
(※) 「OPE」 = Outdoor Power Equipment

2025年12月期 第3四半期 販売状況

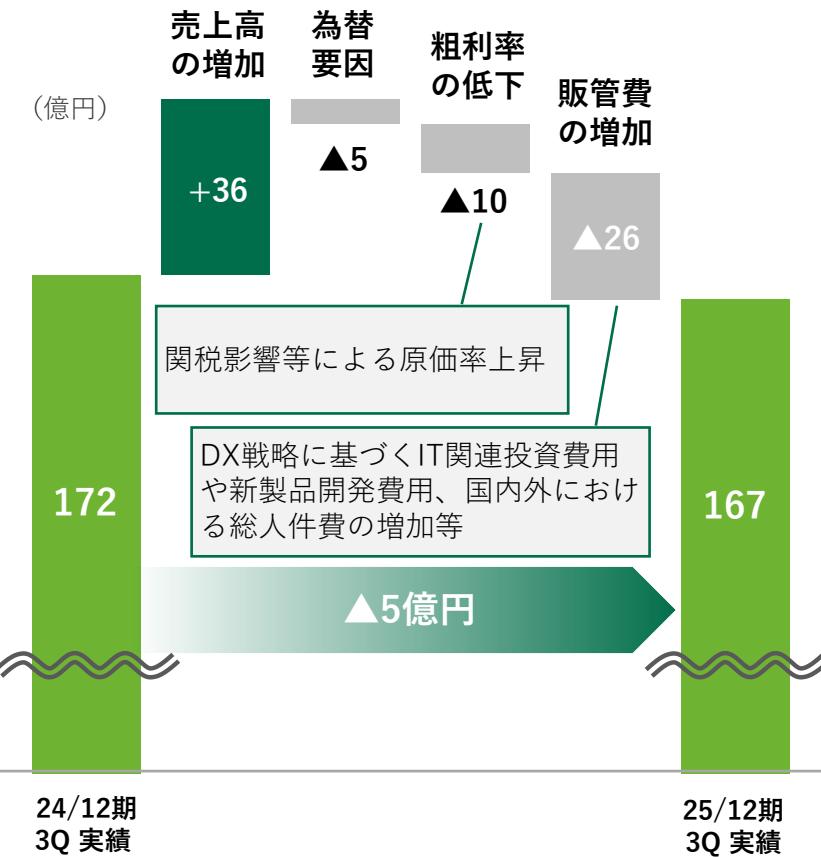
(百万円)		24/12期 3Q 売上高	25/12期 3Q 売上高	前年同期比(%)	概要	(ご参考) 前年同期比(%) ※為替影響除く
小型屋外 作業機械 (OPE)	国内	11,377	11,760	+3.4	米価上昇を背景とした農業従事者の生産性向上への意識の高まりや病害虫対策需要から、防除機等の販売が堅調に推移し増収。	+3.4
	海外 北米	68,541	70,725	+3.2	良好な天候が続いたことに加え、ホームセンター向けのエンジン製品販売が伸長し増収。	+5.5
	海外 欧州	9,107	13,821	+51.8	新型ロボット芝刈機をはじめ、OPE製品の販売が引き続き好調だったことから増収。	+50.7
一般産業用 機械	国内	7,148	6,828	▲4.5	エンジンカッターや投光機など一部製品の販売は堅調に推移した一方で、主力の発電機の販売が伸び悩み減収。	▲4.5
	海外	4,699	4,849	+3.2	米国の関税政策に伴う先行きの不透明感から買い控えていた現地レンタル会社向けの販売が回復し、主力の発電機販売が増加したことで増収。	+5.1
農業用 管理機械	国内	13,442	14,038	+4.4	堅調な需要を背景に、防除機など水田管理作業向け製品の販売が好調に推移し増収。	+4.4
	海外	6,460	5,089	▲21.2	北米市場における穀物価格の低迷や生産コストの上昇を背景に、農業従事者が設備投資に慎重になっていることが影響し減収。	▲19.4

連結売上高および連結営業利益の増減

売上高



営業利益



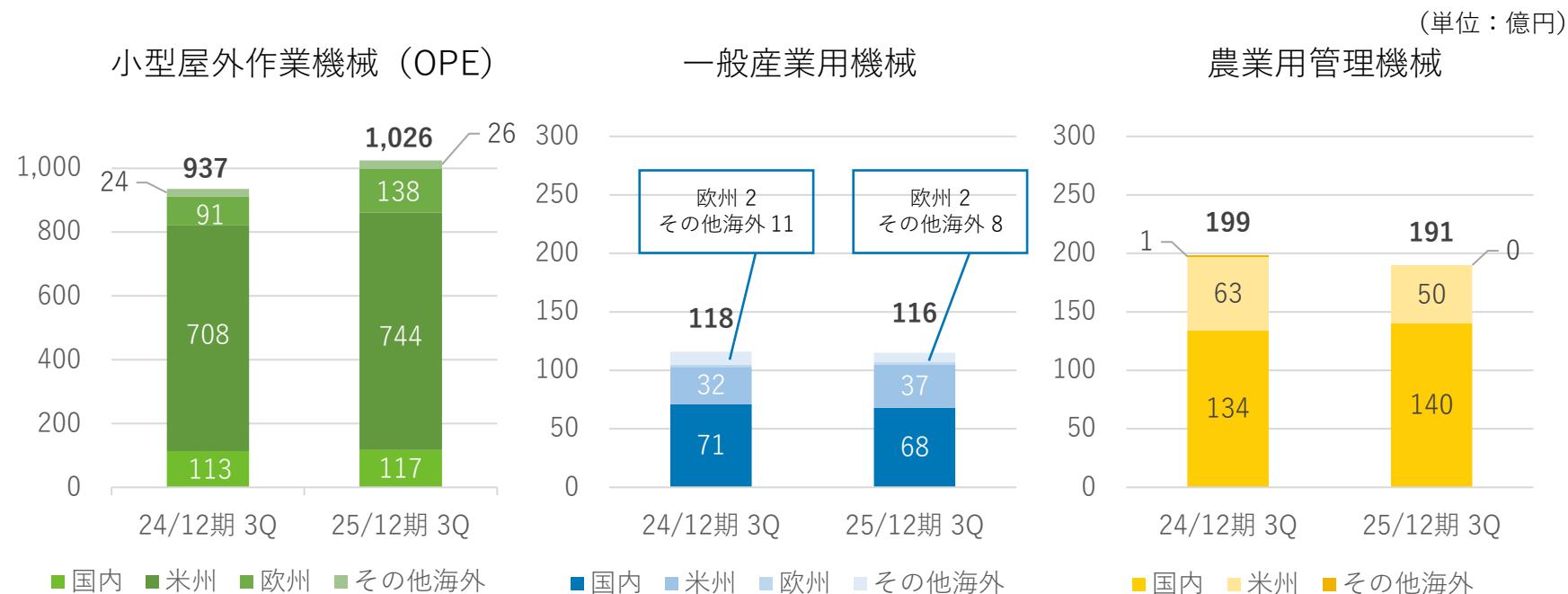
四半期別業績推移



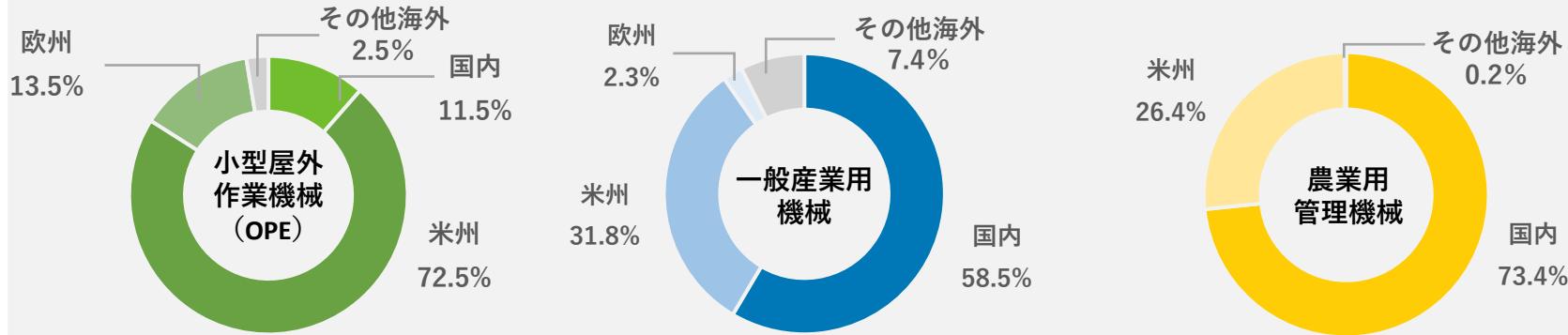
セグメント別経営成績

(百万円)	24/12期 3Q 実績	構成比 (%)	25/12期 3Q 実績	構成比 (%)	前年比 (%)
売上高	127,151	100.0	135,317	100.0	+6.4
小型屋外作業機械	93,790	73.8	102,697	75.9	+9.5
一般産業用機械	11,847	9.3	11,678	8.6	▲1.4
農業用管理機械	19,903	15.7	19,128	14.1	▲3.9
その他	1,610	1.3	1,812	1.3	+12.6
営業利益	17,238	-	16,799	-	▲2.5
小型屋外作業機械	22,896	132.8	22,609	134.6	▲1.3
一般産業用機械	1,351	7.8	1,160	6.9	▲14.1
農業用管理機械	982	5.7	510	3.0	▲48.1
その他	331	1.9	464	2.8	+40.3
全社共通費	▲8,322	-	▲7,944	-	-

売上高実績（セグメント・地域別）



地域別比率 (2025年12月期第3四半期)



2

2025年12月期 業績予想

2025年12月期 通期予想

- 4Qの想定レートを1USドル:150円(前回145円)、1ユーロ:170円(同165円)に見直し、前回公表時から業績予想を修正。
- 売上高は為替の影響や米国関税政策に伴う価格対応等の実施により前回予想を上回る1,720億円とし、中期経営計画2025の目標1,700億円を達成見込み。営業利益は関税政策の影響を踏まえ前回予想を据え置くものの、経常利益および最終利益は増加の見通し。

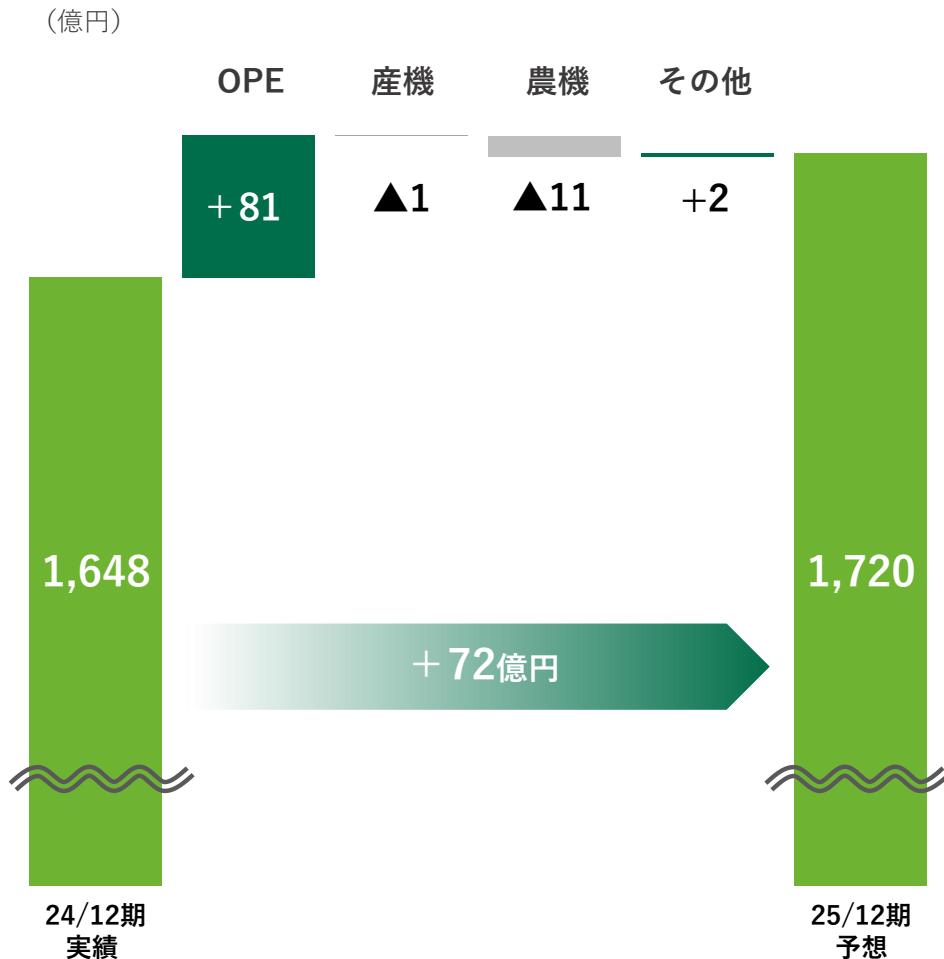
(百万円)	24/12期 実績	構成比 (%)	25/12期 予想		前年比 (%)	25/12期 前回予想(8/8発表)
			構成比 (%)	前年比 (%)		
売上高	164,838	100.0	172,000	100.0	+ 4.3	167,000
売上原価	108,186	65.6	114,500	66.6	+ 5.8	111,000
販管費	37,014	22.5	39,000	22.7	+ 5.4	37,500
営業利益	19,637	11.9	18,500	10.8	▲ 5.8	18,500
経常利益	20,899	12.7	17,500	10.2	▲ 16.3	17,000
親会社株主に帰属する当期純利益	15,889	9.6	13,000	7.6	▲ 18.2	12,500

為替レート	24/12期 実績	25/12期 4Q予想	25/12期 通期予想※
1ドル	152 円	150 円	149 円
1ユーロ	164 円	170 円	167 円

2025年4Qの為替影響 (1円変動 円安: + 円高: -)	売上高	経常利益
USD	± 1.9億円	± 0.4億円
EUR	± 0.3億円	± 0.4億円

※4Qを1ドル:150円 1ユーロ:170円と想定した場合の通期予想レート

連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）



小型屋外作業機械(OPE)

持続的成長を続ける北米市場において、特にホームセンター向けを中心に順調に推移するほか、欧州でも新型ロボット芝刈機をはじめとしたOPE製品の好調な販売継続により売上増加を見込む。

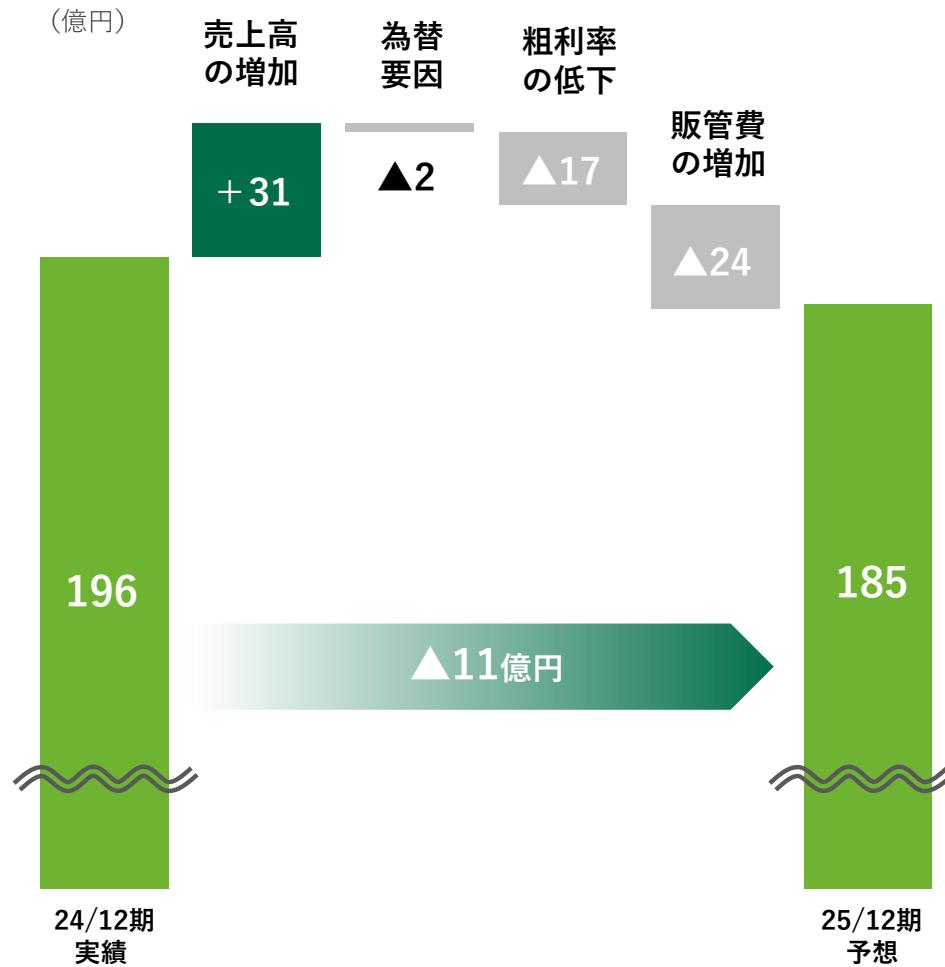
一般産業用機械(産機)

国内は主力の発電機販売が伸び悩んでいる一方で、海外は現地レンタル会社向けの販売回復が進み、全体としては前年並みを見込む。

農業用管理機械(農機)

国内は米価の上昇による堅調な需要環境を背景に增收を見込む。一方、海外は北米における穀物価格の低迷等により、農家の設備投資意欲が低下しており、減収の見通し。

連結営業利益の増減予想



売上高要因

為替の影響を除いた実質売上高の増加による利益増。

為替要因

前期対比での円高想定による利益の減少。

粗利率

部材費コストや製造人件費水準の上昇等により原価率アップ。米国関税の影響も織り込む。

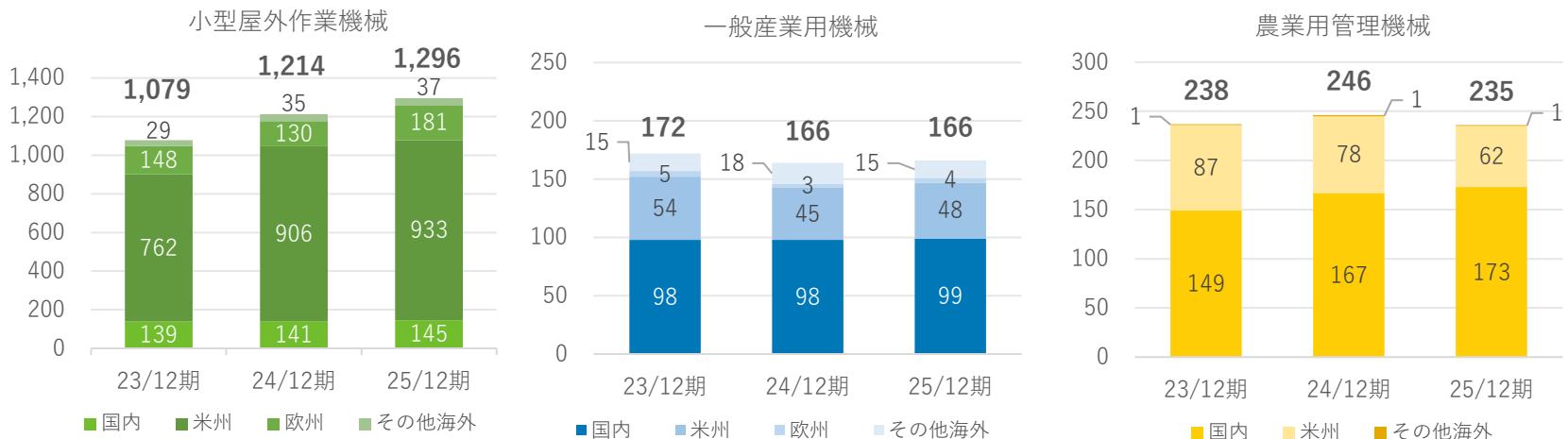
販売管理費

IT分野への投資拡大に伴う業務委託費・償却費や新製品開発費用の増加、人件費水準の上昇等。

売上高目標（セグメント・地域別）



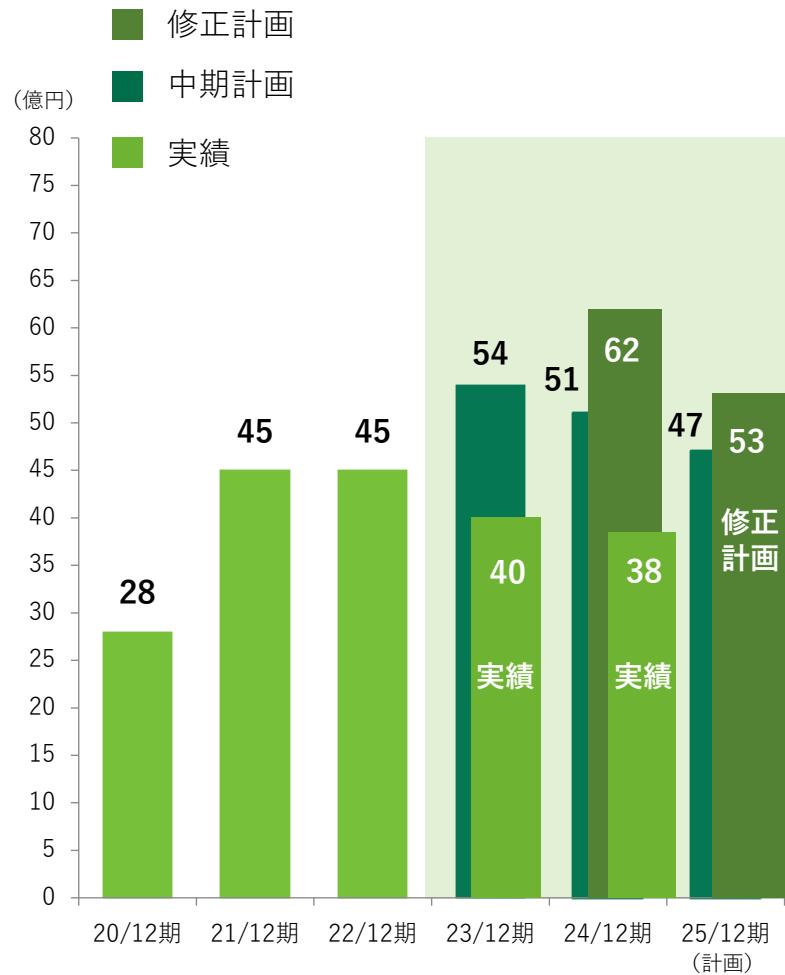
セグメント・地域別売上高



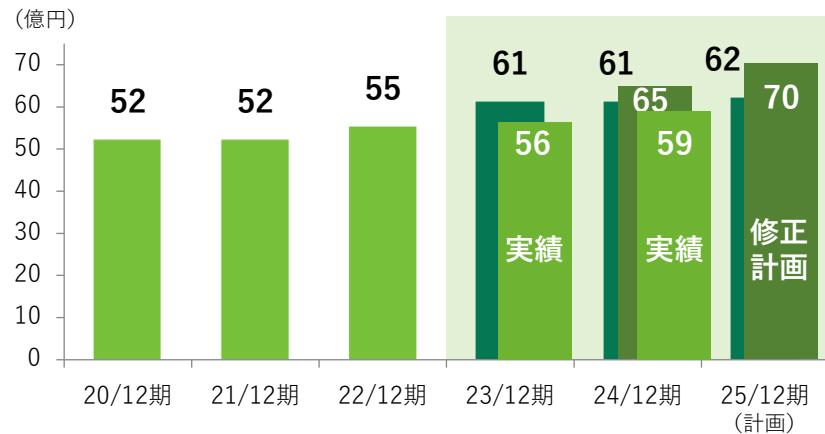
※主要セグメントに含まれない「その他」の売上が、23/12期 22億円、24/12期 20億円、25/12期 23億円 あります。

設備投資・研究開発費・減価償却費

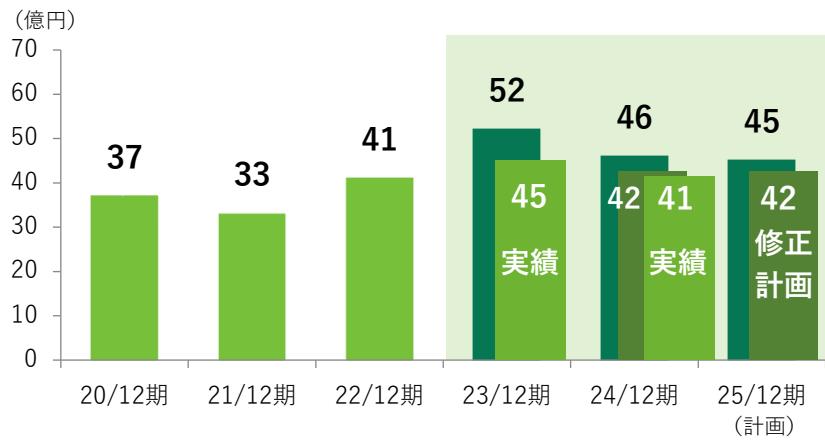
設備投資



研究開発費



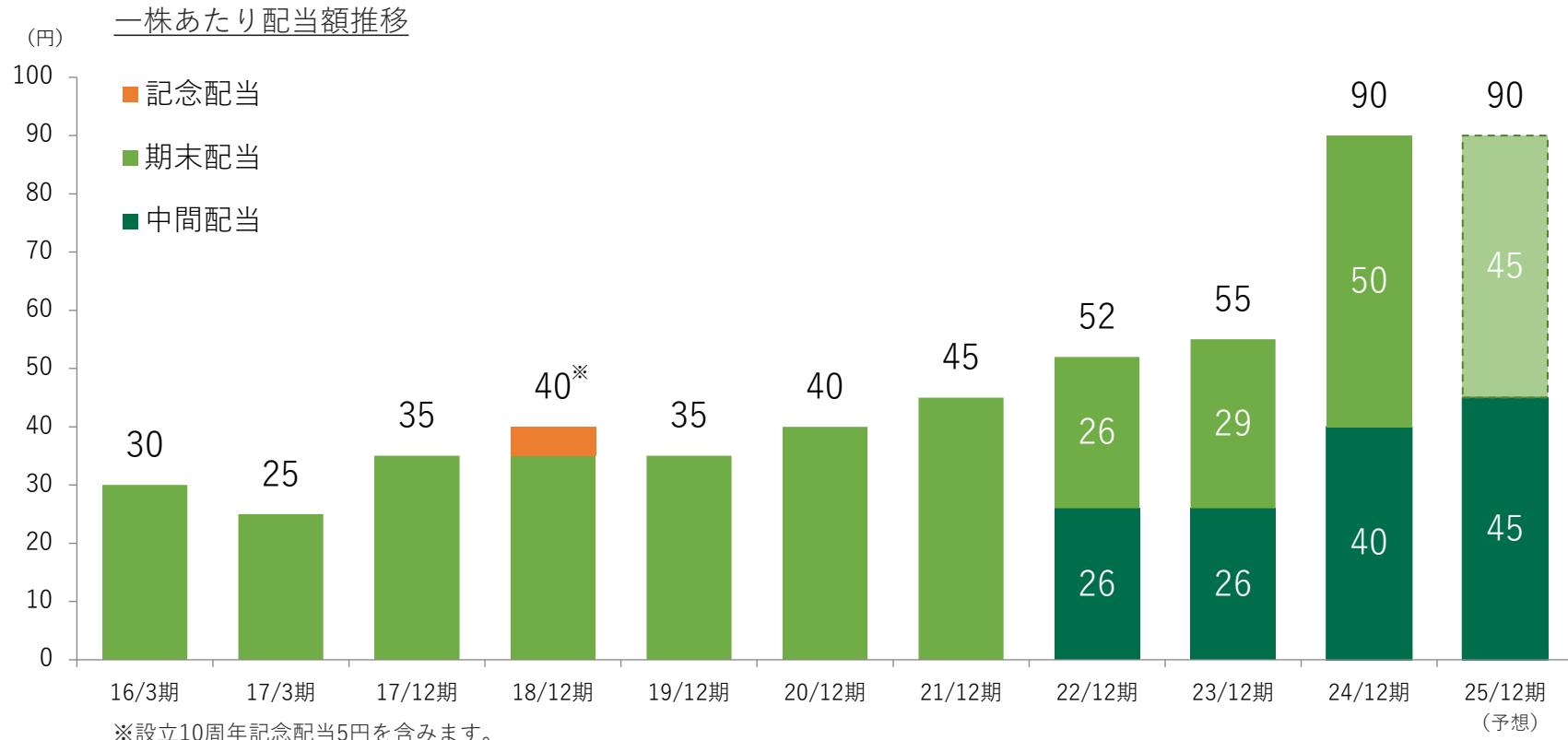
減価償却費



株主還元政策

過去の配当実績に基づき、安定的な配当を継続

- 経営環境や業績および財務状況を勘案するとともに、株式市場の動向も注視して総合的な還元策を検討
- 2024年に引き続き、自己株式取得を実施（2025年3月～5月にかけて40万株・約9億円を取得済み）



トピックス

マルチハイブリッドシステム：自治体にBCP対策として導入決定



▲マルチハイブリッドキューブ10kVA(左)と、システムを構成する発電機(右)

▶実際の建設現場における
検証も順調に進捗
CO2排出量約9割削減※を確認
※発電機単体稼働時との比較



環境配慮型の発電システムとして、
自治体・建設現場を中心に提案、受注獲得

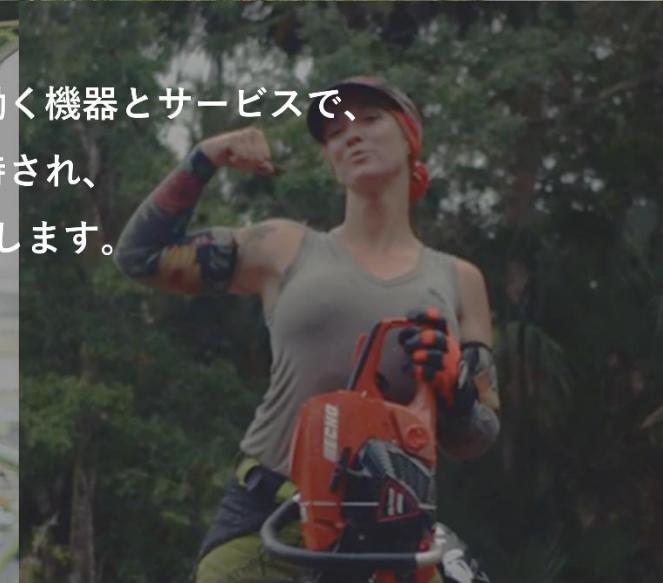
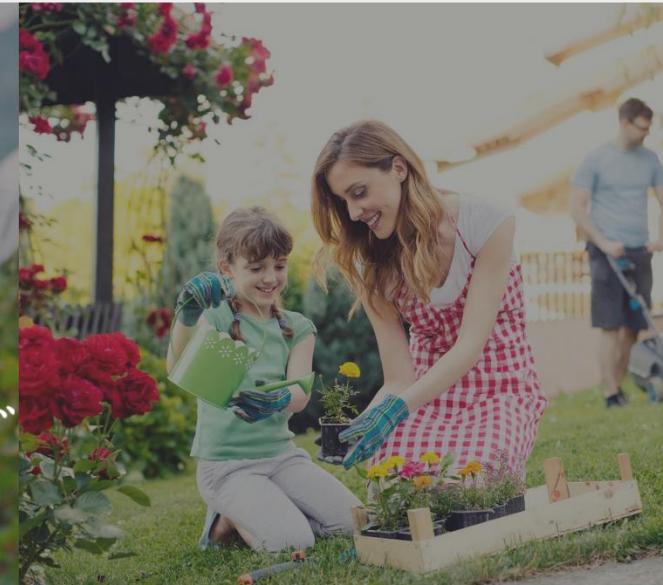
導入進捗

- 2025年6月に販売開始
- 自治体からの初受注を獲得し、2025年内に納品
- 工事現場においても実証・試験運用を25年10月より開始

本システムの訴求ポイント

- 燃料使用量削減：CO2排出量・軽油代を大幅に削減可能
- 静肃性：静音・無臭により周辺環境へ配慮
- 省力化：自動運転+遠隔監視により人手を削減
- BCP用途：災害時の電源確保として

やまびこの存在意義



私たちやまびこグループは、
世界最高レベルの環境技術と安全・安心で革新的な良く働く機器とサービスで、
社会と人々に信頼と感動をもたらし、期待され、
豊かな自然と共生する輝く未来創りに貢献します。

APPENDIX

会社概要

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	164,838百万円（2024年12月期連結）
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	13社※（国内6社・海外7社／2024年12月末現在）
従 業 員 数	3,059名（2025年6月末現在／連結）
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株（2025年6月末現在）
單 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社1社を除く

やまびこの歩み



世界初となる手持ちプロワに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発

KIORITZ

ECHO



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社が合併。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立

KIORITZ

shindaiwa®

ECHO

株式会社 共立

設立 1947年（昭和22年）

YAMABIKO

株式会社やまびこ

設立 2008年（平成20年）

新ダイワ工業株式会社

設立 1952年（昭和27年）



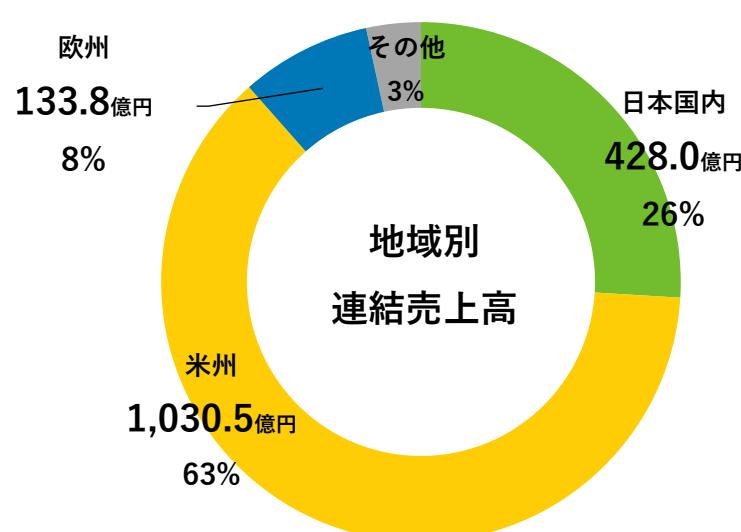
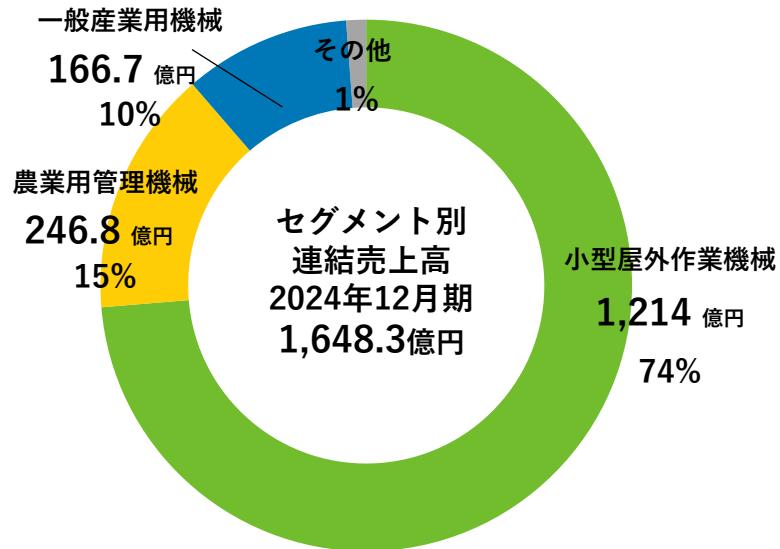
電動チェンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発

shindaiwa®

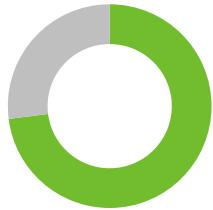
社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする

業績推移と売上構成



事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比
73.7%
(2024年12月期)

国内は農家・林業家の芝刈や伐木用として、海外はOPE※と称され、主に緑地管理を事業とする専門業者が庭や緑地の管理に使用する作業機として販売

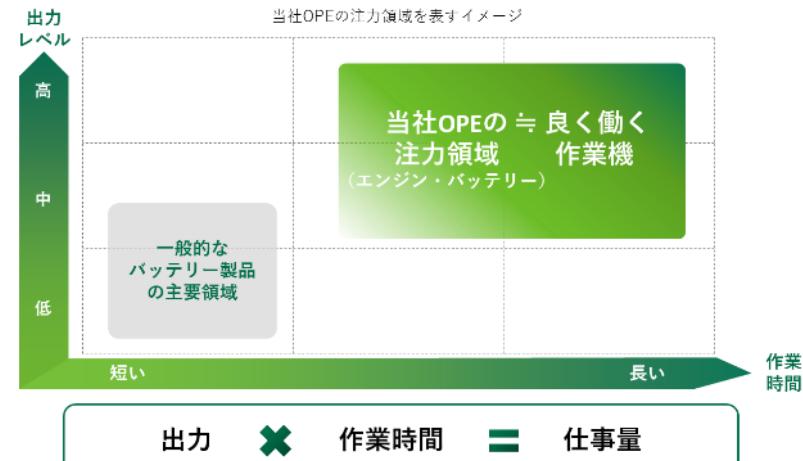
海外においては造園業など緑地管理を事業とする専門業者向けのプロユーチャー市場と主に自家用で使用する住宅所有者向けの一般ユーザー市場に分類

製品は動力源にエンジンやモーターを搭載した屋外作業機のほか、ロボット芝刈機も含む



市場ニーズを満たす製品開発力

- 動力源を問わず、プロユーチャー向けの高い作業効率を持つ製品を開発



技術的な強み

高品質・環境規制に適合したエンジン

- 小型・軽量・高出力(手持機械に最適)・低コスト
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス

環境負荷低減と作業性の両立

- プロサイドに立った出力・制御技術に優れる電動製品
- 化石燃料から代替燃料への適用技術

※Outdoor Power Equipment

事業セグメント：農業用管理機械



売上高構成比

15.0%

(2024年12月期)

国内における防除機械、
北米における
農作物収穫機械の製造販売



乗用管理機



スピードスプレーヤ



ラジコン草刈機



ポテト収穫機（北米）

技術的な強み
培った防除技術にICTを融合し、
スマート農業に貢献

送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

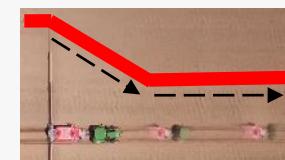


やまびこノズルの
噴霧状態（扇形状）
(平均粒子径
110~270ミクロン)

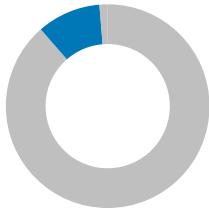


ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術



事業セグメント：一般産業用機械



売上高構成比

10.1%

(2024年12月期)

**建設工事・防災・減災のほか
資源採掘現場やイベント会場等で用いられる
機械の製造販売**



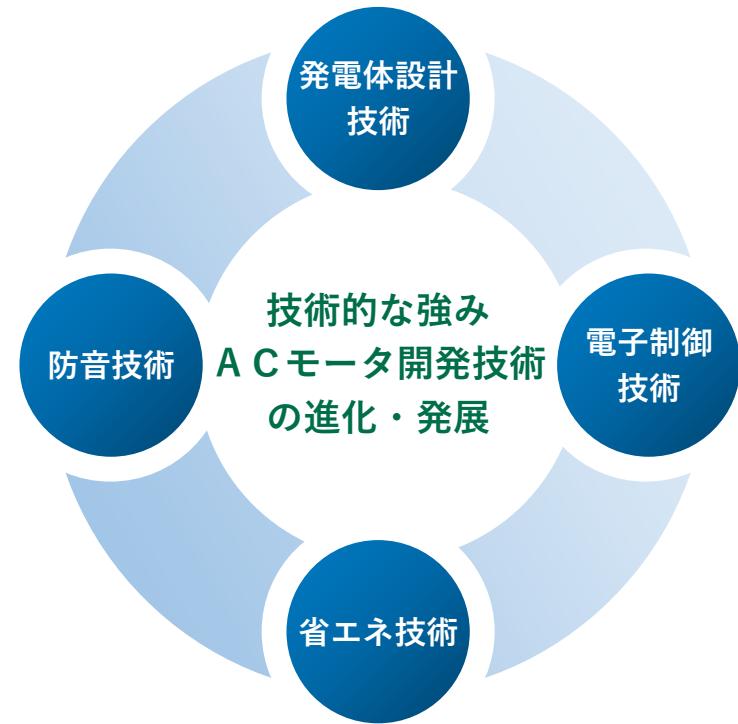
ハイブリッド溶接機

2023年度省エネ大賞受賞**CO₂排出量を約60%削減
脱炭素社会へ貢献する革新の溶接機**

発電機



投光器

技術的な強み

世界初の三相/単相3線
切替なし同時出力可能
(米国特許・国内特許取得済み)

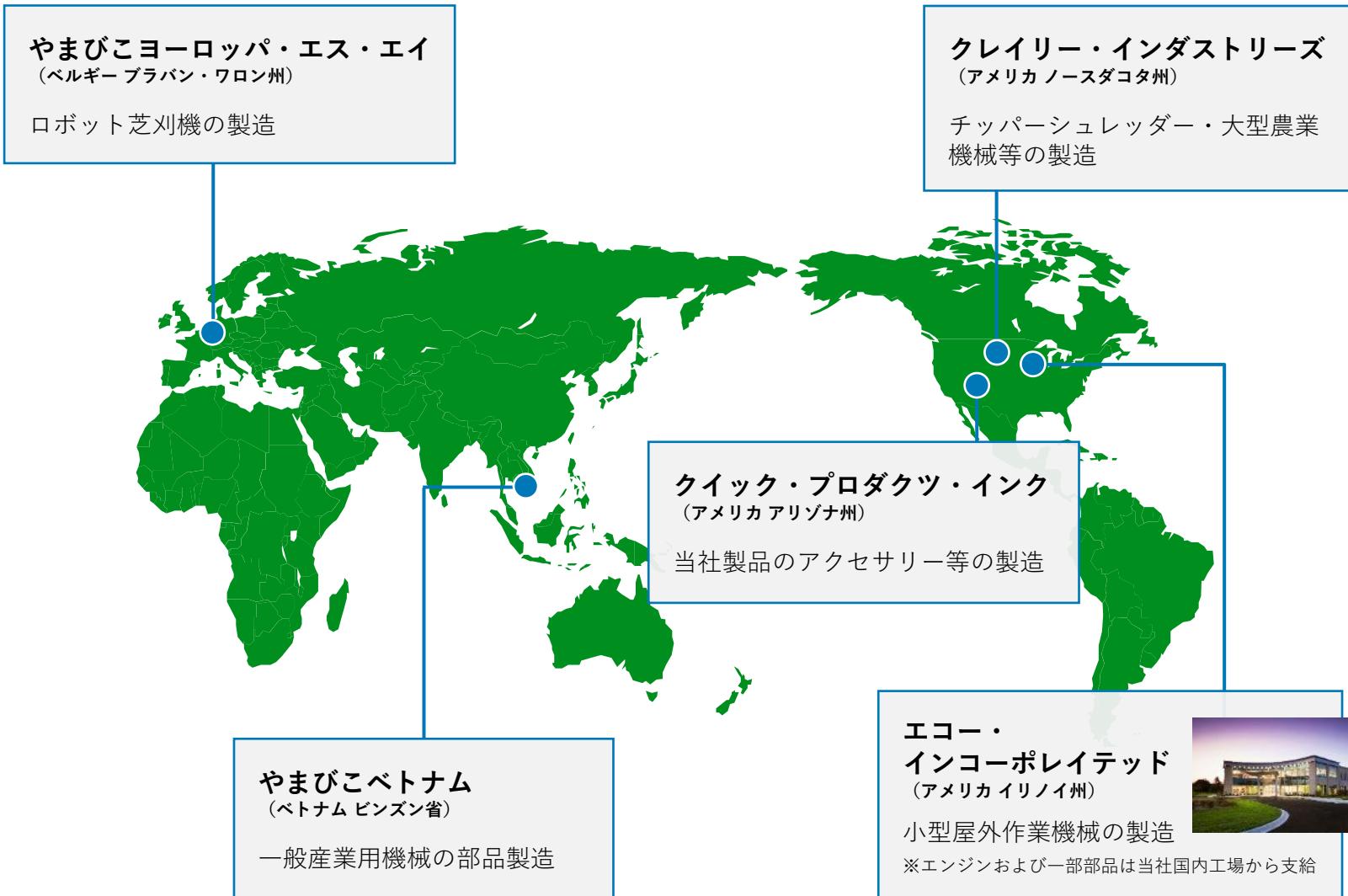


「ダブルECO」
低燃費・騒音排出ガス効果に優れ
た2つのエコ機能の開発

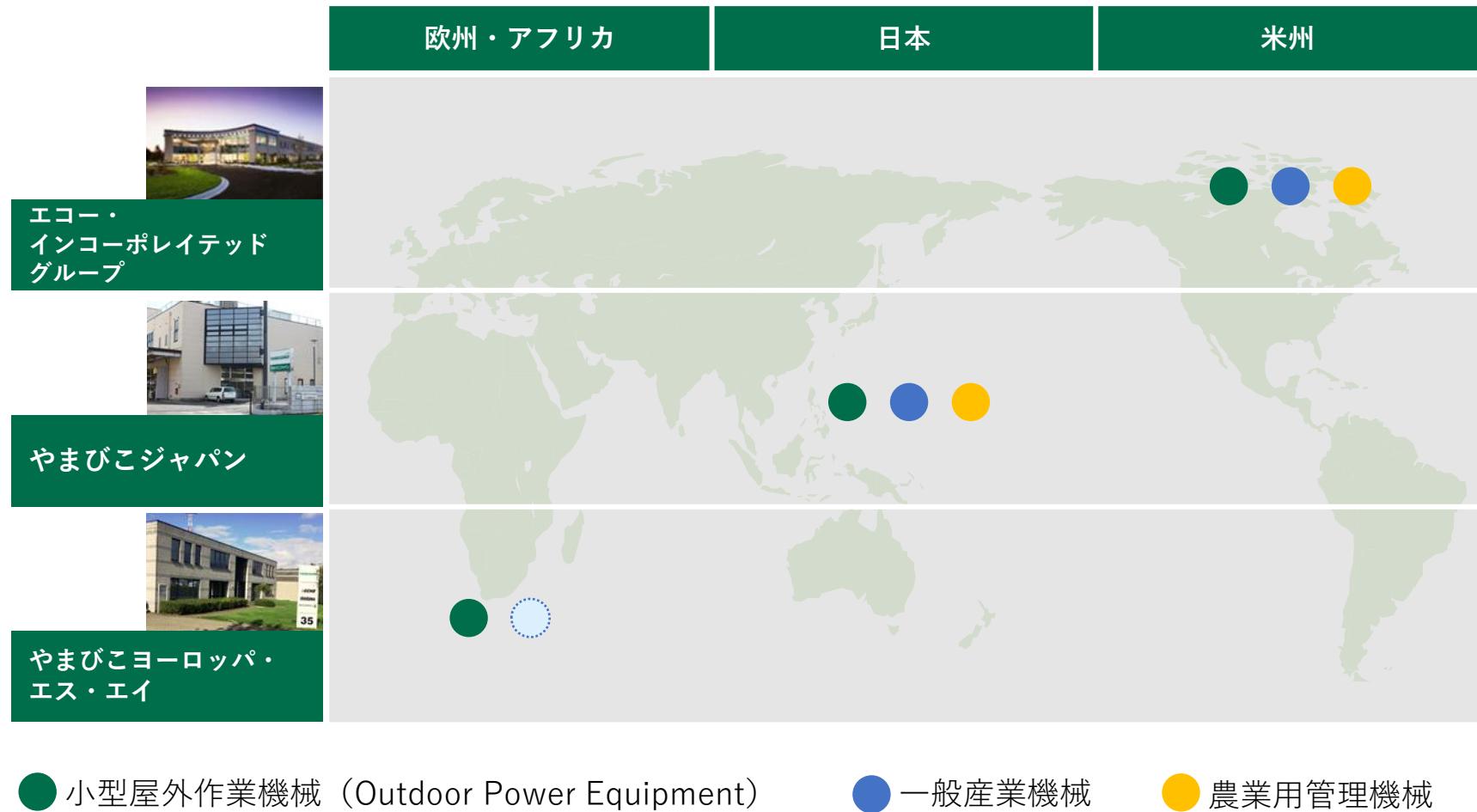
国内生産体制



海外生産体制



販売体制



● 小型屋外作業機械 (Outdoor Power Equipment)

● 一般産業機械

● 農業用管理機械

※ Asia・Middle East・Oceania regions are served by Yamabico headquarters

主要販売子会社

やまびこジャパン株式会社

会社名 やまびこジャパン株式会社

設立 2017年6月

本社 東京都青梅市

拠点 6営業部 38拠点

日本市場における販売拠点

多様な販売ルートと充実の営業体制で
3事業3ブランドの販売を担う

国内販売拠点一覧

- 農林営業部
- 産機営業部
- 営業拠点



充実した営業体制

- 共立・新ダイワ・エコーの3ブランドを販売
- 国内6営業部、38拠点の充実した営業体制
- 全社員の7割が営業・サービスに従事

セールス＝エンジニアとして迅速なサービス提供

- 高い専門性を有する社員がアフターサービスまで一貫して対応
- 農機具販売店やホームセンター、建機レンタル会社などの幅広い販売ルートを通じて多くのお客様に製品を提供

主要販売子会社



会 社 名 エコー・インコーポレイテッド
設 立 1972年11月
本 社 アメリカ・イリノイ州
子 会 社 2社

エコー・インコーポレイテッドグループ



米州で50年続くECHOブランド

OPE・産業機械・大型農機用補助機の
製造・販売拠点

やまびこグループ最大の販売会社

- 1972年の設立以来、米州市場で小型屋外作業機械を販売
グループ売上高の6割を占める（2024年実績）

OPE市場をリードするECHOブランド

- パワーブロワ（1978年）や芝生の溝切機（1990年）など世界初となる製品を投入し常に市場をリード
- 「Xシリーズ」をはじめプロユーザーから信頼を集め



世界初のパワーブロワ



プロ向け製品群「Xシリーズ」

主要販売子会社

YAMABIKO EUROPE SA

会 社 名 やまびこヨーロッパ・エス・エイ

設 立 2002年3月

本 社 ベルギー・ブラバン・ワロン州

欧州地域の販売拠点

欧州・アフリカの34か国に販売



やまびこヨーロッパ・エス・エイ
自動芝刈機の製造・販売
および小型屋外作業機械の販売

欧州地域のOPE販売とロボット開発拠点

2021年に完全子会社化
欧州販売戦略を推進し売上拡大を図る

ベルギーから欧州全域へ展開

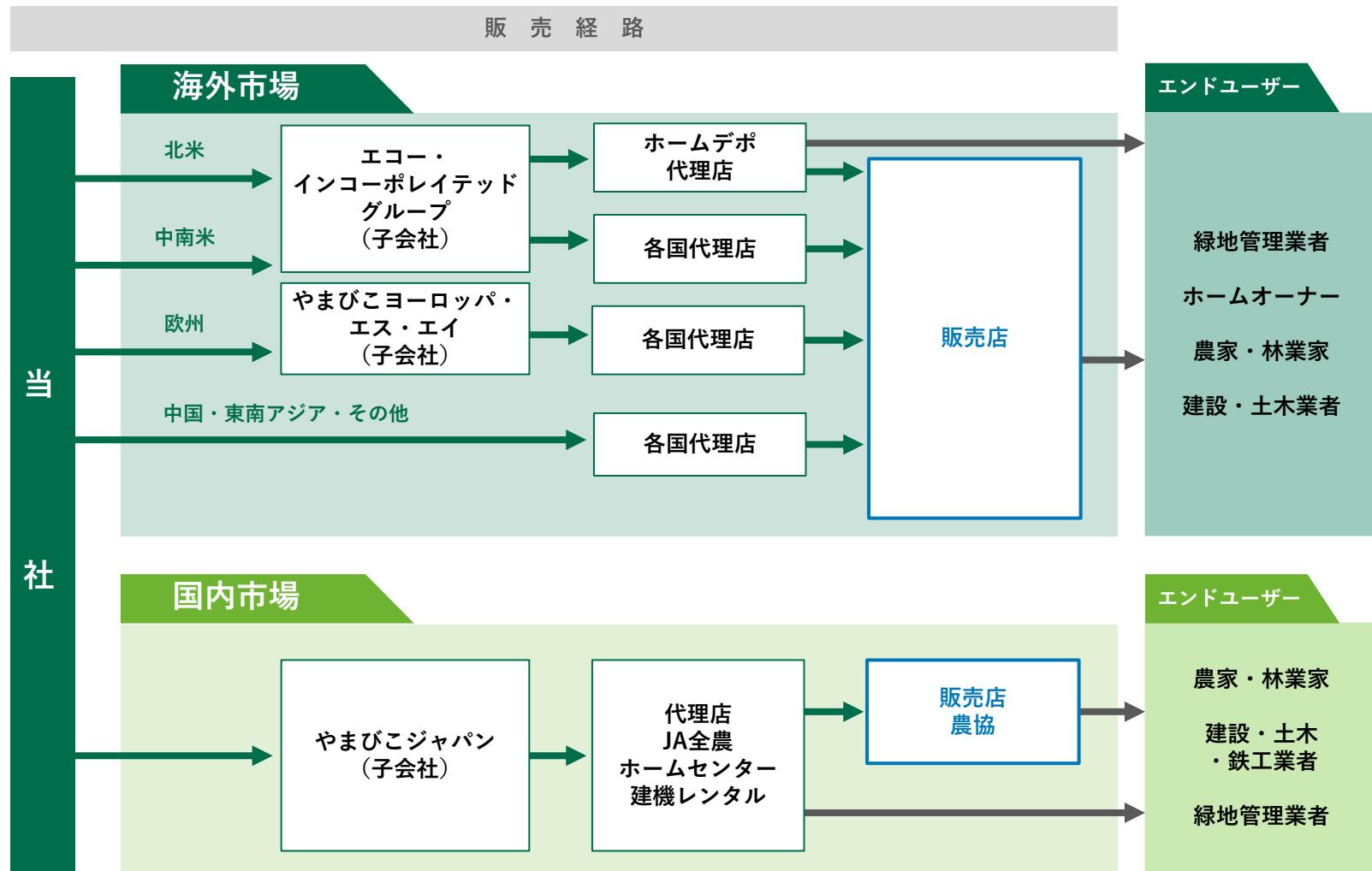
- 欧州・アフリカの34か国でOPE製品を販売
- 統一した販売戦略と代理店・販売店サポートにより更なる
売上拡大を図る

お客様の声を取り入れた開発・販売体制

- ロボット芝刈機の普及が進む欧州
でマーケットインの開発を行い、
業界をリードするロボット芝刈機
を開発・販売



主な販売経路



国内・海外のユーザー

国内エンドユーザー



農家

建設・土木・
鉄工業者



林業家



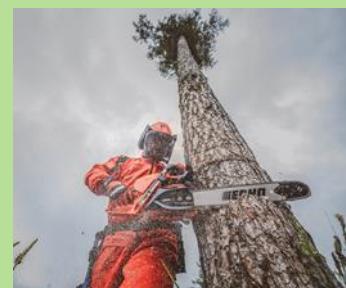
海外エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業家



建設・土木業者

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 企画・経理本部 経営企画部
〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2
e-mail : ir6250@yamabiko-corp.co.jp